

# 希少魚キロ30円↓100円超に

## 「フロスバ」の手法 農林中金連絡会議で共有

農林中央金庫は11日、

2022年度第5回「フロスバ」の手法 農林中金連絡会議で共有  
マリンバンク水産業連絡会議をオンライン形式で開催し、全国の信漁連や漁協の担当者70人が参加した。水産物卸・小売業として、漁獲量の少ないマイナー魚の価格を数十倍に引き上げてきた実績をもつ「フロスバ」の鈴木裕己社長と、ウニの本雄万事業開発・渉外責



画面の向こうに話し掛ける鈴木社長

蓄養で磯焼け対策に取り組みウニノミクス㈱の山みを説明した。愛知・蒲都市出身で祖

父は産地仲買人だったという鈴木社長は、大学卒業後に極洋に入社し30歳になった02年に独立して

同社を創業。徹底した情報提供による販売スタイルを確立してきたことを振り返った。

互いの立場を知ろうとしないために起こる生産者と流通業者にありがちな利害衝突関係を、「両方とも駄目」と一刀両断。消費者に食べてもらう機会を増やすために「量販店、外食店の販売拡大を図る」ことの重要性を説き、「差別化戦略こそが産地の明暗を分ける」と

警鐘を鳴らした。

販売のための取り組みとして、知られていないけどおいしいマイナー魚や未利用魚を活用して生産者、流通業者の共存共栄を図る方法を共有。北海道に水揚げされるクロメヌケはキロ30円で取引されていたが、冬場には1000円を超える高級魚になったと紹介。

全国の漁連、漁協と提携し調達できる先を302漁港まで増やし、3年間で1200店の飲食店を開拓したという。

調理用途を意識することや、他社にないニッチ商品の開発、POPの作成、直営の居酒屋などの「出口」をもつことなどを挙げた。

鈴木社長は「地域に一人でも本気でやる人がいれば変わる」と漁協や漁連の担当者にエールを送り、「利益を上げることとは得意。興味があれば連絡を」と呼び掛けた。

## ウニ蓄養で磯焼け対策

ウニノミクス

全国で起きている磯焼け対策としてウニの蓄養に取り組み成果を上げてきていると紹介。

一定の価格でウニを漁業者から買い上げて、陸上の施設で給餌することで商品価値を上げてきた。大分県に続き、山口・長門市でもウニ蓄養の事業化が決まり、すでに建設に着工しているという。

参加者の質問に答える形で、施設はできるだけ海の近くがいいとし、まずは地域で用地を確保できることなどを必要なステップとして挙げた。